

別記様式第2号

令和 3年 4月 16日

行政視察報告書	(会派の場合) 会派の名称			
	代表者氏名			㊟
	(会派以外の場合) 議員氏名 待寺 真司 ㊟			
参加議員	伊東 圭介	議員	荒井 直彦	議員
	土佐 洋子	議員		議員
		議員		議員
		議員		議員
視察先	(1) 静岡県伊豆市			
	(2) 静岡県下田市			
	(3)			
視察目的 (項目)	(1) 鳥獣被害対策事業 鹿肉加工場現地踏査			
	(2) 御用邸のあるまち友好都市との意見交換・鳥獣被害対策			
	(3)			
【調査内容・概要】				
(1) 静岡県伊豆市 「DEER BASE しかまる」 現地踏査				
<p>静岡県伊豆市は、伊豆半島の中央部に位置し、豊かな自然環境に恵まれ、南側は天城山系の山並みに囲まれ、西側は駿河湾に面しています。中央部には天城山から発する狩野川が流れ、北部はその沖積層に形成された平野となっています。総面積は363.97K㎡で、静岡県の総面積の4.7%を占めています。その8割以上が山林で占められていて、可住地面積は全体の17.3%です。土地利用では、森林が82.7%、農地が4.6%、宅地が2.7%、その他が10%です。</p> <p>平成16年4月1日に、修善寺町・土肥町・天城湯ヶ島町・中伊豆町の4町が合併し誕生いたしました。令和2年4月1日現在の人口は、30,036人で高齢化率は40.52%となっています。合併当時は37,869人で高齢化率は26.10%でした。やはり人口減少と少子高齢化の波にのまれている自治体です。</p> <p>鳥獣被害対策事業として、イノシシや鹿を捕獲して、食肉用として極力命を無駄にしないため、公設公営の「イズシカ問屋」と民設民営の「DEER BASE しかまる」の2事業所で、年間約4000頭捕獲される鹿のうち、イズシカ問屋では約1000頭、しかまるでは約400頭を加工して販売しています。ちなみにイノシシは年間約1000頭捕獲され、その内約300頭がイズシカ問屋にて加工販売されています。</p>				

視察先の「しかまる」は、鹿肉のみの加工で、ペットフード専門で販売まで手掛けております。現在は商品がすぐに完売してしまい、売る商品が不足しているのが悩みとのことでした。日本全国見渡しても、鹿やイノシシの加工比率はトップクラスとのことでした。



👉 3月29日 視察先 DEER BASE しかまる 代表 高山 弘次氏(中央)

★事前に伊豆半島地区においては、鹿やイノシシの農作物被害が多い事は認識していたので、下田市産業振興課農林係担当の鈴木さんと電話にて情報交換をしていました。先方より、視察見学するのであれば、伊豆市の「イズシカ問屋」を候補に調整をしたらどうかと提案があり、調整の結果、金曜日以外の視察は受け入れないとのことなので、土佐議員の知人で、波多野市議会議員（伊豆市）からの紹介で「しかまる」という鹿専門の場所に伺いました。

高山代表は もともとイズシカ問屋で7年半、設立から在籍していましたが、今から3年前に独立し、現在に至ります。情報として、イズシカ問屋に持ち込まれる鹿が年間で1000頭・イノシシが300頭とのことでした。しかまるの業務内容は、ペット用の鹿肉製造販売で、骨も含みます。現在の土地は、自身の土地で、もともと荒廃していた土地を開拓したそうです。

* 2棟ある建物は、いわゆるコンテナハウスと言われているもので建物と地面とに空間があるので、固定資産もかからない工夫がされています。解体施設建設には、国や県の補助金は受けていなくて、しがらみがないからこそ、今、自由に事業が順調に進んでいます。

*鹿は、年間で400頭前後解体しています。

(1日で持ち込みされる鹿は、多い時で5頭位です)

すべてが持ち込みの鹿。持ち込んだ方には、1頭あたり、¥1,000を支払います。持ち込んだ方は、国と県からそれぞれ有害としての手続きを行い¥8,000+¥8,000の合計¥16,000を手に入れているのではないかとお話をありました。

*今まで解体後に出る不要のものは、事業ごみで処理していましたが静岡県との調整の結果、協議会を設立し、その会にアドバイザーとして、運営に携われれば、2021年4月1日から、処理費として、県から、1頭あたりの金額をいただけるようになる予定だそうです。

*今後、鹿の搬入の数が減少した場合は、場所の移転を考えているとのこと。

記 荒井 直彦



👉 搬入された鹿を吊るすウインチ

👉 ペットフード加工場（コンテナ利用）

(2) 静岡県下田市 「御用邸のあるまち友好都市締結に向けて」

静岡県下田市は、伊豆半島の南部東側に位置し、市域は東西13km、南北16kmの広がり、面積は104.38㎏あります。富士箱根伊豆国立公園の一角を占め、47kmにも及ぶ変化にとんだ海岸線を有し、また下田港は開国日本への口火を切った場所でもあります。

昭和30年に、下田町・稲梓村・稲生沢村・白浜村・浜崎村・朝日村の1町5村が合併して新しい下田町が誕生しました。昭和46年1月に市制を施行し、加えて爪木崎の景勝地に御用邸が建設され、下田市のイメージが全国的に広がったそうです。ちょうど令和3年は市制施行並びに御用邸建立50周年の節目となります。

昭和36年12月に、伊豆急行が開通し陸の孤島としての下田の様相を一変させ、観光産業の急激な発展を成し遂げ、現在の来遊客は年間290万人を超えて、国際観光都市として多様性に富みながら、個性的で特徴あるリゾート地を目指しています。

人口は、令和2年1月1日現在で21,230人、10,747世帯となっています。10年前と比較すると、約4,200人減少しています。世帯当たり人数も1.98人と2人を割っており、単身世帯の増加が顕著です。地目別面積ですが、田3.26㎥、畑3.71㎥、宅地3.81㎥、山林59.47㎥、その他34.13㎥となっています。漁業を中心とした第1次産業と観光が軸となって、まちの経済を回しています。

現在、葉山町が中心となって進んできている「御用邸のあるまちとの友好都市締結」に向けて、伊東議長以下3名で下田市を訪問して、松木市長・小泉議長をはじめ下田市の方々と、様々な分野で意見交換いたしました。中でも印象的だったのが、御用邸との距離感でした。葉山では御用邸付近で多くの町民がお出迎えして、また海岸で皇族の皆様方とお会いし、お声がけいただけるのですが、下田市では駅前では多くの町民でお出迎えされるのですが、ひとたび須崎の御用邸にお着きになると、町民との交流はほとんどないとのことでした。

そして今回は、くくり罠の免許を有し、日頃より鳥獣被害対策に取り組まれている中村下田市議会議員から、下田市の鳥獣被害の現状と自作のくくり罠の実演をみる事ができました。これを機により一層両市町の交流が深まり、すでに5月8日に友好都市締結を行う「那須町」に続き、下田市との締結を行い、将来的には現存する御用邸のある町「下田市・那須町・葉山町」で、市民交流の活性や自然災害発生時の相互応援協定などにつながっていくことを期待しています。



👉 自作のくくり罠の仕掛け方を実演する中村議員 1個200円ほどの経費です

☆現存する御用邸は、那須御用邸、須崎御用邸と葉山御用邸の3つしかなく、かねてより一般質問等で町に御用邸のつながりで友好都市を結ぶよう提案してきました。葉山町第四次総合計画後期基本計画案の単位施策13、「姉妹都市交流の推進、国内姉妹都市との交流活動の推進には、防災面での相互応援対策の強化などを目的として、町の風土や歴史的背景などにゆかりのある自治体との新たな国内友好都市のあり方について研究、検討します」とあります。また、町長施政方針には、「静岡県下田市とも連携ができればと考えておりますが、別荘地、癒しや安らぎの地としての価値や情報を共有し、発信することで、ともにお互いを高めていける関係になれば素晴らしいと考えております。」とあります。早い時期に実現させるべきと思います。日頃、下田市民・葉山町民が仲よく行き来をしていると感じています。

また、令和3年5月21日～22日には横浜元町をスタートするClassic Japan Rallyが下田まで走ります。参加資格車は1919年～1973年までにヨーロッパまたはアメリカメーカーにて生産されたスポーツタイプ車輛。Classic Japan Rallyのメインテーマは「美しい日本、次の世代へ」。日本の風景が持つ四季折々の美しい表情を紹介し、また各自治体・観光協会・学校・教育機関と連携して、子どもたちとの触れ合いをとおしてカースポーツ文化、モノづくり、古きものの大切さを次の世代に継承するものです。こちらのRallyの主催者は葉山町民でいらっしゃいます。(葉山町内を走るClassic Japan Rallyは3月に予定されていましたが、新型コロナウイルスによる非常事態宣言中のため残念ながら中止されました。)それ以外にも、令和2年10月20日と12月22日には下田市議会副議長たちが町長を訪問し、友好都市のお話が提案されました。

今回、議員有志4人で下田市に伺い、松木市長をはじめ小泉議長、橋本副議長や議員、職員のみなさまと御用邸友好都市締結に向けた意見・情報交換をすることができました。葉山町議会としては友好都市について全員協議会ですでに承認していますが、このような機会を設けていただいたことは初めてのことでした。

御用邸の町としての課題の共有をすることもできました。また、下田市では鹿や猪による被害がかなりあるとのことで、勉強をさせていただきました。

下田市は令和3年に市制施行50周年、そして御用邸ができて50年の節目の年。ぜひ、この年に葉山町との友好都市締結することに期待したいです。

記 土佐 洋子



👉 下田市開国記念館 館長に案内していただきました 👉 下田市の歴史を感じます



👉 下田市議会議場にて 小泉議長・橋本副議長・滝内議員・進士議員・中村議員と

視察概要及び編集 待寺 真司

(裏面に続く)

(裏)

